

まだまだ暑い日が続いています

残暑が厳しいですねえ

これを書いているのは八月二十日です。相変わらずまだまだ暑いですね。おかげで頭が働きません。ぼーっとしてします。大変です。皆さまにはいかがお過ごしでしょうか。

関東より北は、例年になく雨が多く、冷夏のような状態になっているとか。西日本は厳しい暑さに見舞われ、今年も猛暑になっています。

ここ松浦でも、まだまだ暑い日が続いており、涼しくなるのははるか遠く感じます。

皆さまにおかれましては、熱中症などには十分気をつけてお過ごしくださいませ。



神社うんちく帖

さて、今回もまた「神社うんちく帖」の続きとなります。日本の神話に戻って、皆さまたちのいろいろについてのお話です。

◆はじめに「混沌」ありき

世界の神話の多くが「天地の創造」にまつわる「創造神話」から始まるように、日本の神話でも、この世界の創造から始まります。

まずそこには「混沌」が存在します。

日本の神話は、その混沌について以下のように書いてあります。

◆『古事記』

「天地初発之時（あめつちのはじめのとき）」

◆『日本書紀』

「古（いにしえ）に天地未だ剖（わか）れず、陰陽分れず、渾沌たること鶏子（たまご）の如く…」と表されています。

世界の状態は、天と地も別れておらず。光も闇もなく、なんにもわからない状態でした。

そこから神さまが生まれて、この世界を創りあげるといふ物語が始まります。

世界の神話の中には、その「混沌」についての名前がついてたりもします。

ギリシャ神話では「カオス」という神さまの名が、エジプト神話では「ヌン」という名があり、他の神話でも「ティアマト」「ナンム」などという名がついています。

これらの神さまは「原初の神」であり、世界の始まりに深く関わる存在です。

◆「混沌」から始まる物語

さて、ここから本題。

日本の神話では、混沌から神さまたちが出現します。場所は高天原。ちなみに、どうやって高天原が作られたのかはわかりません。謎です。

◆最初の神さま

まず「天御中主神（あめのみなかぬしのかみ）」が最初に現れました。

この神さまに関しては、宇宙の中心とか、高天原を司る神さまとか諸説あります。しかし、すぐに姿を隠されたので、どんな神さまなのか、実はよくわかりません。

神さまたちの中心として存在し、神聖な創造力と全知全能の力を持つ「至高の神さま」として位置づけられています。ほんとは謎です。

神仏習合の時代には「妙見菩薩」という名前でも信仰されていました。